



かゆみをともなう
皮膚炎について



犬アトピー性皮膚炎
とは？



犬アトピー性皮膚炎
の治療



犬アトピー性皮膚炎
とは一生のおつきあい

犬の アトピー ケア

正しい知識を身につけよう！





かゆみをともなう皮膚炎について



かゆい = 犬アトピー性皮膚炎?!

かゆみの強い皮膚炎のうちのひとつが

犬アトピー性皮膚炎ですが、

かゆい = 犬アトピー性皮膚炎とは限りません。

最初は「治るかゆい皮膚炎」から考えていきましょう!

まずは原因さえ排除すれば治る

皮膚炎かどうかを考え、

治るものから治療していきましょう。





かゆみの強い7大皮膚炎

1. ノミアアレルギー性皮膚炎
2. 疥癬 (かいせん)
3. 犬毛包虫症
4. マラセチア
5. 膿皮症
6. 食物アレルギー
7. 犬アトピー性皮膚炎

1~6でない場合に
犬アトピー性皮膚炎
の可能性が
高くなります!!

治る

なんとかなる

完治はむずかしい





まずは「治る皮膚炎」を治しましょう

「治る皮膚炎」のノミアレルギー、疥癬(かいせん)、犬毛包虫症、膿皮症、マラセチアは原因を排除することによってかゆみ等の症状をなくしていきます。

1. ノミアレルギー



 **治療法** 駆除剤を使用

2. 疥癬(かいせん)



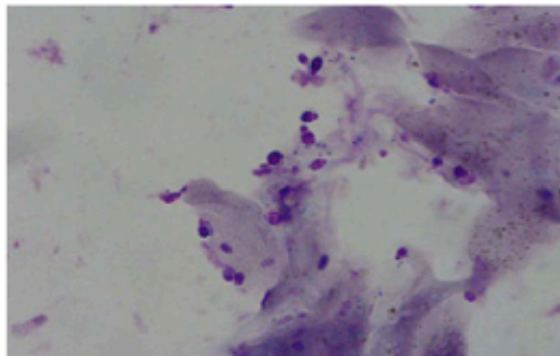
 **治療法** 駆除剤を使用

3. 犬毛包虫症



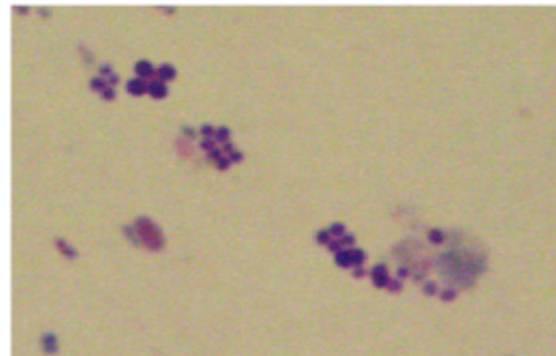
 **治療法** 駆除剤を使用


4. マラセチア



 **治療法** 抗真菌薬を内服
抗真菌シャンプーを使用

5. 膿皮症



 **治療法** 抗生物質を内服
抗菌シャンプーを使用

アトピー性皮膚炎の
治療で用いる、いわゆる
**「かゆみ止め」は
使用しません！**



「食物アレルギー」かどうか見極めましょう

かゆみをともなう皮膚炎の場合、食物アレルギーの可能性も考えられます。

食物アレルギーの診断



病院で処方される特殊なフード「**療法食**」と**水だけ**を2ヶ月間与えます。

【食物アレルギー対応の療法食】

- ◀ セレクトプロテイン(ダック & タピオカ) [写真左]
- ◀ アミノペプチドフォーミュラ [写真中]
- ◀ 低分子プロテイン [写真右]

↓ 2ヵ月後に… ↓

良くなっていたら

食物アレルギーと
考えられます。

原因となる食材が特定できないので
療法食を継続していきます。

良くならない場合

食物アレルギーではない
と考えられます。

皮膚にやさしい食事を食べさせてあげましょう。





犬アトピー性皮膚炎の可能性

**それでもかゆみが残っている場合は
犬アトピー性皮膚炎の可能性が！**

愛犬の皮膚炎が「治る皮膚炎」や
食物アレルギーでなかった場合には、
犬アトピー性皮膚炎の可能性が非常に高くなります。



犬アトピー性皮膚炎は**初発年齢が若く、完治がむずかしい病気**です。

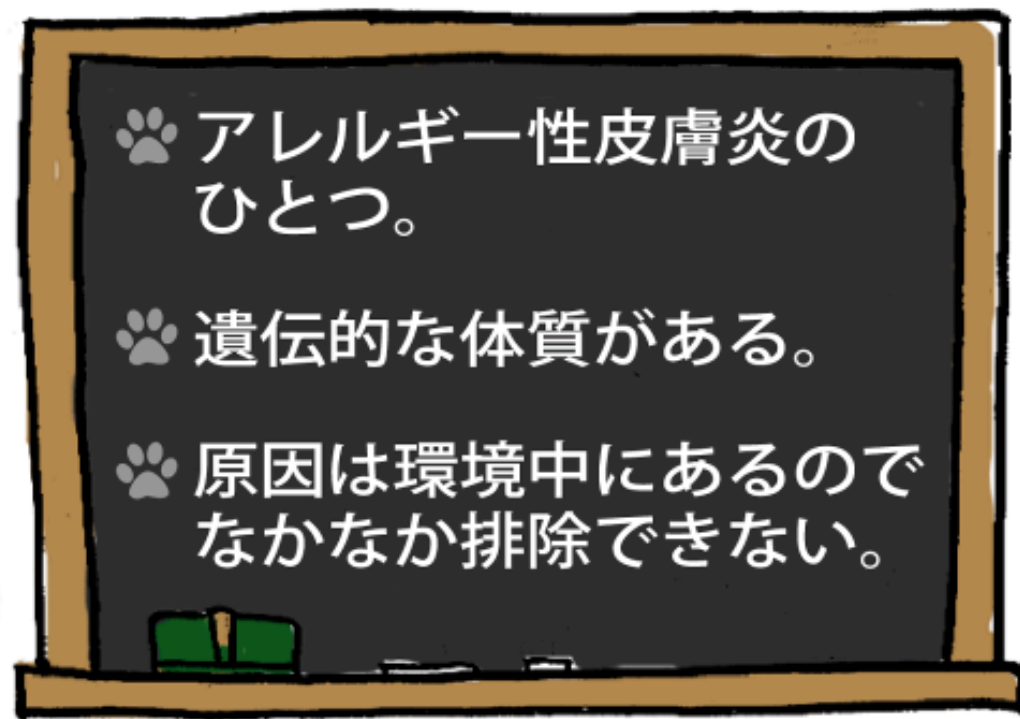
でも完治がむずかしいからといって、あきらめてはいけません。
あきらめて何もしなければ、症状は悪化するいっぽうです。

犬アトピー性皮膚炎と上手につきあって、かゆみをできる限り減らし、
愛犬の苦痛を和らげてあげる治療を第一に考えてあげましょう。



犬アトピー性皮膚炎とは？

犬アトピー性皮膚炎は全てが解明できていない病気のひとつです。
正しい知識を身につけて適切に治療しましょう。





犬アレルギー性皮膚炎チェック！

🐾 年齢

発症年齢は約70%が3歳以下、
約85%が5歳以下です。

🐾 犬種

遺伝要因が関係していると考えられています。

【好発犬種】

柴犬

ウエスト・ハイランド・ホワイト・テリア
シー・ズー

ゴールデン・レトリバー
ヨークシャー・テリア

ビーグル

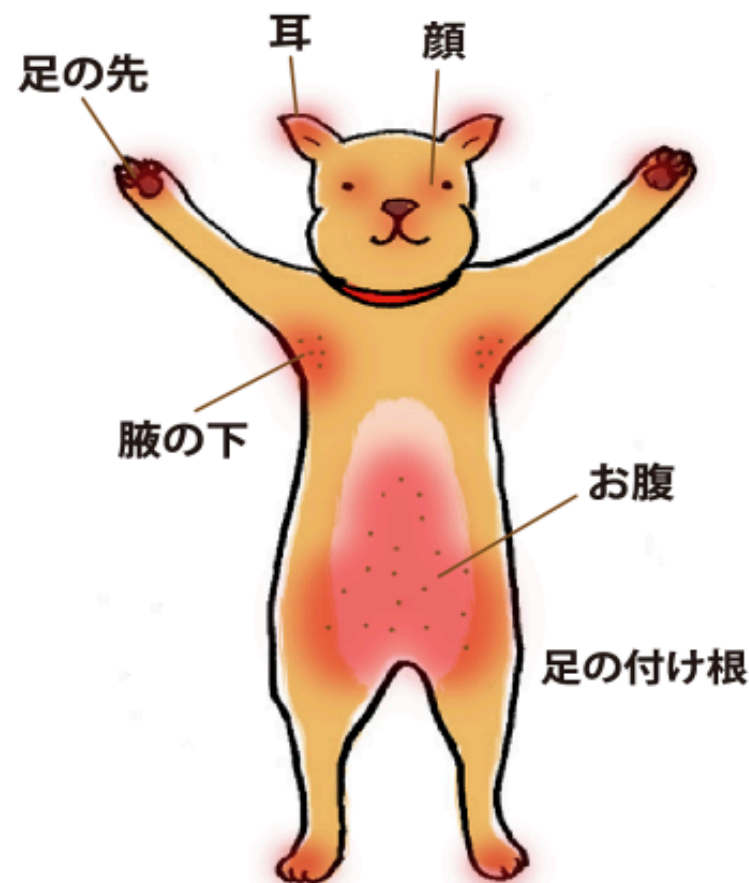
ラブラドル・レトリバー
シェットランド・シープドッグ

マルチーズ など



🐾 発症しやすい部位

皮膚の薄いところに症状が出ます。
症状はいろいろあります。





犬アレルギー性皮膚炎の症状

最初は春だけかゆがるなど、ある季節にかゆみが生じますが、年月を経ると、だんだんかゆみが慢性化し、一年中かゆがるようになります。

また、体をかいたり舐めたりすることによって、症状が出てきます。

症 状



掻破痕
(そうはこん)

引っかき傷の痕



紅斑
(こうはん)

皮膚が赤くなる



色素沈着

皮膚が
黒っぽくなる



苔癬化
(たいせんか)

皮膚が硬く
ぶ厚くなる



脱毛

局所的、または
全体的に



犬アレルギー性皮膚炎の治療 ～主な治療法～

犬アレルギー性皮膚炎の治療法はいくつかあります。
それぞれのメリット・デメリットを理解しましょう。

治療法	メリット	デメリット
ステロイド (副腎皮質ホルモン)	<ul style="list-style-type: none">○ 即効性がある○ 有効性が高い○ 安価	<ul style="list-style-type: none">× 副作用が強い× 投薬を止めると再発する
抗ヒスタミン剤	<ul style="list-style-type: none">○ 副作用が少ない○ 安価	<ul style="list-style-type: none">× 効き目が弱い× 投薬を止めると再発する
免疫抑制剤	<ul style="list-style-type: none">○ ステロイドより副作用が少ない	<ul style="list-style-type: none">× 免疫を制御してしまう
減感作療法	<ul style="list-style-type: none">○ 唯一の根本的治療○ 副作用が少ない	<ul style="list-style-type: none">× 開始時に特殊検査が必要× 実施できる施設が限られる× 注射なので手間がかかる
犬インターフェロン療法	<ul style="list-style-type: none">○ 副作用が少ない○ アレルギー体質改善の可能性	<ul style="list-style-type: none">× 注射なので手間がかかる
その他	現在、さまざまな新しい治療法が検討されていますので、 獣医師と相談の上、治療を行ってください。	



犬アレルギー性皮膚炎の治療 ～犬インターフェロン療法～

最も新しい、犬アレルギー性皮膚炎の治療法です

犬のアレルギー体質改善を目的とした、
犬アレルギー性皮膚炎の症状を緩和する
インターフェロン製剤を注射します。

インターフェロンはもともと体内にある物質なので
体にやさしく、副作用も少ないため、
安心して使うことができます。

かゆみの軽減のほかにも、犬アレルギー性皮膚炎の特徴的な症状である
掻破痕(引っ掻き傷の痕)、**紅斑(皮膚が赤くなる状態)**、**脱毛**などの症状を
総合的に緩和する効果が認められています。

最初の1ヶ月間は頻回の通院が必要ですが、効果が現れてきたら、
投与間隔をあけていきます。





犬アトピー性皮膚炎の治療 ～シャンプーでアレルゲンを除去～

愛犬の生活環境をトータルで見直しましょう！

病院での治療とあわせて、愛犬の生活環境をトータルで見直してあげると、効果的に症状がよくなります。

生活環境のなかにあるアレルギーの原因物質であるアレルゲンを、愛犬の周りからできる限り排除しましょう。

シャンプーをしよう！

体についたアレルゲンを取り除くために、定期的にシャンプーしてあげましょう。

使用するシャンプーは獣医師の先生と相談しながら、肌の状態にあったものを選ぶといいでしょう。

【肌にやさしいシャンプー・コンディショナー】



▲ユニバーサル
メディケート
シャンプー
(医薬部外品)



▲アロエ &
オートミール
シャンプー



▲アロエ &
オートミール
コンディショナー
(保湿剤)



犬アトピー性皮膚炎の治療 ～シャンプーの仕方～

1 ブラッシング

シャンプーをする前に、全身を十分ブラッシングして、毛玉などを取り除きます。



2 予備洗い

ぬるま湯で全身を軽くすすいで、大きな汚れやホコリを取り除いておきましょう。

3 本洗い

シャンプーを手のひらに取り、皮膚を傷つけないように、指の腹を使ってマッサージするように全身を洗います。
内股、脇、足の裏、指の間などは汚れやすい部分なので、念入りに洗いましょう。



4 すすぎ

シャンプーが残っていると皮膚への刺激になるので、十分洗い流してください。特に、指の間はシャンプーが残しやすいので入念に流しましょう。
保湿剤を使うかどうかは、獣医師と相談してください。

【入念に洗い流したいポイント】

指の間



5 乾燥

バスタオルを軽く皮膚にあてて、水分を吸い取るように拭きましょう。しっかり水分を拭き取ったら、ブラッシングで毛並みを整えます。
ドライヤーで乾かす場合は、熱くなりすぎないように注意し、ドライヤーを体から離して乾かしましょう。



犬アレルギー性皮膚炎の治療 ～お掃除と専用フード～

🐾 お掃除をしよう！

ハウスダストやノミ・ダニの死骸を取り除くために、こまめに家を掃除しましょう。
愛犬のケージやベッドも毎日掃除してください。



🐾 お肌に配慮した食事を食べさせよう

動物病院で処方される療法食などの(低アレルギー、皮膚の健康を維持することで皮膚のバリア機能を保つ)食事に切り替えましょう。

犬の皮膚は約 21 日で生まれ変わるといわれ、摂取したタンパク質の約 30% が皮膚・被毛の維持に利用されています。また、犬アレルギー性皮膚炎は、バリアが低下した皮膚からアレルギーが侵入することが原因のひとつと考えられています。**皮膚の健康維持に必要な栄養素を十分に含み、バランスの取れた食事を与えることが大切です。**

【写真左】ベッツブラン スキンケアプラス ▶

【写真右】スキンサポート ▶

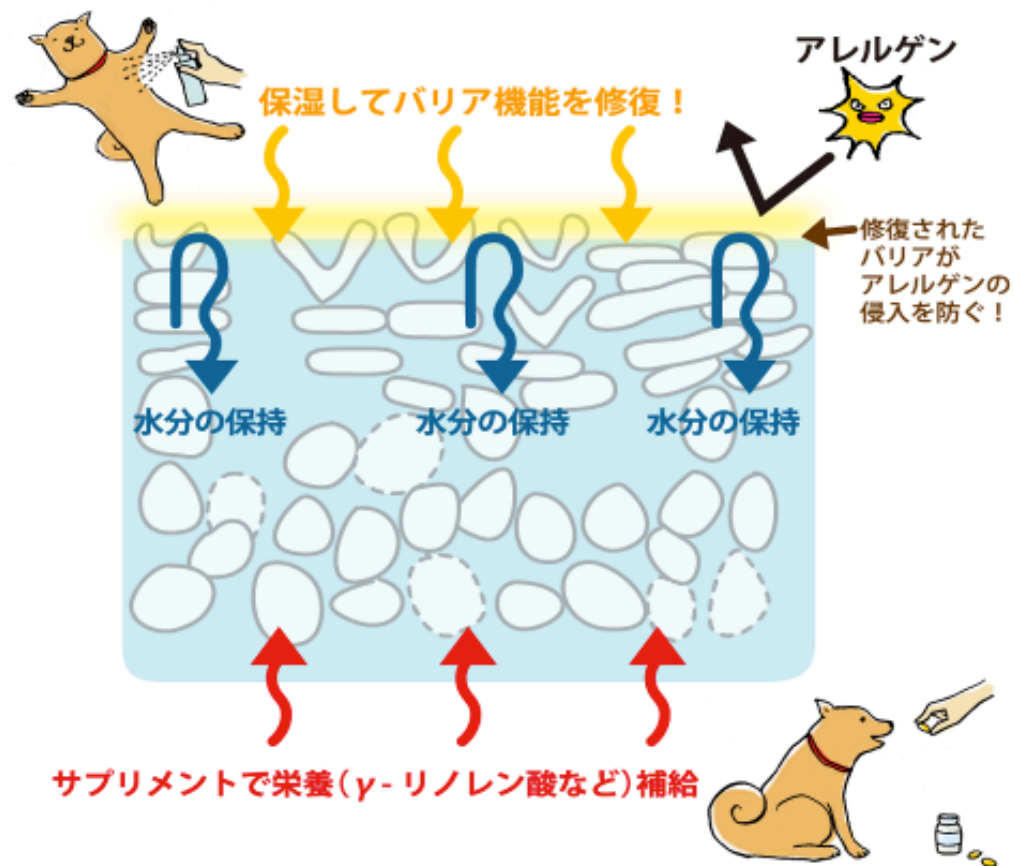




犬アレルギー性皮膚炎の治療 ～ドライスキン対策～

🐾ドライスキン対策をしよう！

ドライスキン対策によるバリア機能修復イメージ図



犬アレルギー性皮膚炎の皮膚はバリア機能が低下している状態にあるため、アレルギーが侵入しやすくなってしまいます。

皮膚の状態を正常に戻すためには、ドライスキン対策が必須です。

🐾低刺激性保湿剤(保湿性コンディショナー)で保湿しましょう。

🐾皮膚の正常化に役立つ栄養素(γ-リノレン酸など)をサプリメントなどで補給しましょう。



犬アレルギー性皮膚炎とは一生のおつきあい

治療しすぎないこともだいじです

治療によってかゆみや赤みが減れば、愛犬の辛さも減るはずですが、たとえばかゆみや赤みが少し残っていたとしても、前よりも症状が軽減されていればいいと考えることもだいじです。



それ以上の症状改善を求めて治療を進めることによって、愛犬の体に負担がかかり、よけいに愛犬を苦しませてしまうかもしれません。

犬アレルギー性皮膚炎の治療には根気がいりますし、ある程度の費用がかかってしまう場合があります。

獣医師の先生とよく相談して、愛犬の症状とあなたの生活にあった治療法を選択してください。